

平成26年度

長期研修者研究抄録



鹿児島県総合教育センター

平成26年度 長期研修者一覧

番号	教科等	氏名 (勤務校)	研究主題
1	体育	五代 孝輔 (鹿児島市立 草牟田小学校)	より体育好きな児童を育てる体育学習の創造 －体育を苦手とする児童に焦点を当てて－
2	理科	小谷 智美 (鹿児島市立 八幡小学校)	推論する能力を育成する理科学習指導の在り方 －モデル化を重視した授業を通して－
3	へき地・ 複式教育	松下 静雄 (南九州市立 大丸小学校)	複式学級において自ら考え、表現する力を高める授業実践 －第5・6学年算数科の間接指導時の対話を中心に－
4	生徒指導	横山 秀仁 (薩摩川内市立 隈之城小学校)	いじめに向かわない児童を育てる生徒指導の研究 －意図的・計画的な「異年齢の交流活動」を通して－
5	体育	宇都 孝幸 (伊佐市立 牛尾小学校)	動きのコツをつかみ、論理的思考力を高める体育学習の創造 －「論理的思考のプロセス」を学習活動に生かして－
6	道徳	四元 大輔 (始良市立 帖佐小学校)	郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する児童を育てる道徳学習 の在り方 －各教科等との関連を図った道徳の時間の指導を通して－
7	国語	久保 昌意 (曾於市立 岩南小学校)	情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができる児童 の育成 －国語科学習指導における新聞の活用を通して－
8	数学	針原 謙一 (霧島市立 舞鶴中学校)	事象を数理的に考察し表現する能力を高める学習指導に関する研究 －文字を用いることのよさを実感させる指導の工夫を通して－
9	理科	岡野 智和 (鹿児島県立 鹿児島南高等学校)	科学的探究心を高める学習指導の在り方 －鹿児島の豊かな自然を教材として－
10	工業	北吉 美大 (鹿児島県立 加治木工業高等学校)	「課題研究」における実践的な技術を育成する学習指導の在り方 －ものづくりに生かせるコミュニケーション能力の育成を通して－
11	特別支援 教育 (体育)	中園 貴博 (鹿児島県立 鹿児島養護学校)	知的障害のある児童の「基本的な運動」に関する指導の在り方 －児童の主体的な活動を目指した授業づくり－

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
1	体育	五代孝輔	鹿児島市立草牟田小学校	より体育好きな児童を育てる体育学習の創造 ー体育を苦手とする児童に焦点を当ててー	<p>本研究は、体育を苦手とする児童に焦点を当てて、「より体育好きな児童」を育てる体育学習を目指した研究である。</p> <p>まず、小学生・中学生・高校生・大学生・保護者・教師への意識調査を基に、体育を苦手と思うようになった原因やきっかけなどを明らかにした。そして、苦手意識の分析を行い、児童の苦手意識がどのような感情からきているのかを詳細に捉えた。次に、意識調査を生かした「より体育好きな児童を育てる授業モデル」を構築するとともに、「苦手意識に基づく指導の要件」を作成し、検証授業による児童の変容から、有効性を確認した。さらに、「小中高12年間を見通した器械運動領域における系統的な指導計画」を作成した。</p> <p>研究の結果、器械運動領域（マット運動・跳び箱運動）において、苦手意識は低下し、体育を苦手とする児童はいなくなった。さらに、運動有能感が高まった。</p> <p>この研究を通して、児童は、より体育好きになり、研究主題に迫ることができた。</p>
2	理科	小谷智美	鹿児島市立八幡小学校	推論する能力を育成する理科学習指導の在り方 ーモデル化を重視した授業を通してー	<p>本研究は、モデル化を重視した授業を通して、児童の推論する能力を育成することを目指した理科学習指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、モデル化を通して自分の考えを可視化させたり、検証計画を具体的に立案させたりすることで、児童は主体的に観察、実験を行い、その結果と予想や仮説を照合させて結論を導き出すことができると考え、検証授業を行った。</p> <p>その結果、既存の知識、経験や観察、実験の結果を比較したり関係付けたりして規則性を見いだしたり、それらを実生活に適用したりする姿が見られるようになった。</p> <p>このようなことから、モデル化を図ることは、規則性を推論することだけでなく、活用を促す上でも有効であることが分かった。</p>
3	へき地・複式教育	松下静雄	南九州市立大丸小学校	複式学級において自ら考え、表現する力を高める授業実践 ー第5・6学年算数科の間接指導時の対話を中心にー	<p>本研究は、自ら考え、表現する力を高めるために、間接指導時に対話を取り入れた複式学習指導法について研究したものである。</p> <p>具体的には、間接指導時に対話を促す工夫や同時間接指導時に児童の対話を見取り、教師が意図的につなぐ工夫を行った。</p> <p>その結果、他者との対話が促され、新たな意味や価値を見いだしたり、自らの変容を実感したりすることで、自ら考え、表現する児童の姿が見られた。</p> <p>また、教師が意図的・計画的に関わることにより、効果的に児童の考えを広げたり、深めたりすることができた。</p>

4	生徒指導	横山 秀仁	薩摩川内市立隈之城小学校	<p>いじめに向かわない児童を育てる生徒指導の研究</p> <p>一意図的・計画的な「異年齢の交流活動」を通してー</p>	<p>本研究は、「いじめに向かわない児童」を育てるための意図的・計画的な「異年齢の交流活動」について研究したものである。</p> <p>まず、社会性の基礎として「規範意識」、「自己有用感」、「対人関係能力」の3要素から、児童の意識の変容を捉えていくことにした。</p> <p>次に、「意図的・計画的な異年齢の交流活動」の年間計画や単元指導計画の立案、1単位時間における働き掛けなどを行った。特に、検証活動Ⅰでは、「交流活動の楽しさを味わうことができる活動」を組み立て、検証活動Ⅱでは、6年生が1年生に「いじめについて考え、教える交流活動」を行った。</p> <p>その結果、意図的・計画的な「異年齢の交流活動」を行うことを通して、3要素の高まりが見られるとともに、「いじめ問題」について真剣に考える態度やいじめの抑止力として行動することへの自覚が育成されつつあることが明らかになった。</p>
5	体育	宇都 孝幸	伊佐市立牛尾小学校	<p>動きのコツをつかみ、論理的思考力を高める体育学習の創造</p> <p>ー「論理的思考のプロセス」を学習活動に生かしてー</p>	<p>本研究は、生涯を通じて運動に親しむ資質や能力と21世紀の社会に必要な汎用的能力の育成という視点に立ち、動きのコツをつかませるとともに、論理的思考力を高める体育学習を創造したものである。</p> <p>まず、体育学習における「論理的思考力」とは何かを明らかにし、それを基に「論理的思考のプロセス」を構築した。次に、動きのコツをつかむことや論理的に考える活動に関する教師と児童の実態を調査し、学習指導上の課題を把握した。その上で、動きのコツをつかみ、論理的思考力を高める学習指導上の工夫を行い、「論理的思考のプロセス」を基に授業モデルを作成し、実践することで検証した。</p> <p>研究の結果、論理的に考え、動きのコツをつかむ児童が増えた。また、論理的思考力については、思考・判断の力の高まりを確認することができた。したがって、「論理的思考のプロセス」を生かした授業が体育学習において効果的であることが明らかになった。</p>
6	道徳	四元 大輔	始良市立帖佐小学校	<p>郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する児童を育てる道徳学習の在り方</p> <p>ー各教科等との関連を図った道徳の時間の指導を通してー</p>	<p>本研究は、各教科等との関連を図った道徳の時間の指導を通して、郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する児童を育てる道徳学習の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的にはまず、郷土の構成要素を分類・整理し、郷土を愛する児童の段階を明らかにした。そして、それらを基に、各教科等との関連を図った道徳の時間の構想について明らかにした。さらに、道徳の時間において、道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める指導の工夫について授業を通して検証を行った。</p> <p>その結果、道徳的価値「郷土愛」の自覚を深める道徳の時間の構想の在り方が明らかになった。また、郷土を意識し、積極的に関わろうとしたり、郷土の伝統や文化をよりよくしようとしたりする児童の姿が見られるようになった。</p>

7	国語	久保昌意	曾於市立岩南小学校	<p>情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができる児童の育成</p> <p>—国語科学習指導における新聞の活用を通して—</p>	<p>本研究は、小学校段階において日常生活で生きて働く国語の能力を育成するために、新聞活用を通して、情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができるようにする国語科学習指導の在り方について、研究したものである。</p> <p>具体的には、まず、各過程において指導すべき内容を整理し、新聞を活用した単元を貫く言語活動を設定し、単元全体の構成を工夫した。次に、語句を習得し、活用するために「語句マップ」・「語句活用ノート」を授業に取り入れた。さらに、評価の際に「判断基準」の考え方を活用し、児童の表現した文章を適切に評価できるように工夫した。</p> <p>その結果、児童は、教材文と新聞を比べるなどして、自分の表現に活用できる情報を読み解き、論理的な文章構成や適切な表現を使って自分の考えを明確にし、高い目的意識や相手意識をもって、発信することができたことから、指導の手立てが有効であることが明らかになった。</p>
8	数学	針原謙一	霧島市立舞鶴中学校	<p>事象を数理的に考察し表現する能力を高める学習指導に関する研究</p> <p>—文字を用いることよきを実感させる指導の工夫を通して—</p>	<p>本研究は、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるために、文字を用いることよきを実感させる指導の工夫について研究したものである。</p> <p>具体的には、中学校数学科第1学年における「数と式」領域を対象として、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を関連付けられるような学習問題を設定したり、互いに説明し伝え合う活動を充実させたり、見通し・振り返り活動として発問を工夫したりするなどの指導の工夫を行った。</p> <p>その結果、文字を用いることよきに気づき、文字を活用して課題を解決したいという生徒の姿が多く見られるようになり、事象を数理的に考察し表現する能力を高めることができた。</p>
9	理科	岡野智和	鹿児島県立鹿児島南高等学校	<p>科学的探究心を高める学習指導の在り方</p> <p>—鹿児島の豊かな自然を教材として—</p>	<p>本研究は、生徒の「科学的探究心」の向上を図ることを目的とし、鹿児島の自然を生かした教材を用い、生徒が主体的に学習する理科学習指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、鹿児島の豊かな自然を教材化することで生徒の興味・関心を高める視点と、探究の過程に基づき、各自が見いだした疑問点について、解決への見通しを立てさせ、目的意識をもって実験、観察を行わせるという視点から学習指導の工夫を行い、授業を通して検証した。</p> <p>その結果、グループごとに異なる課題を見だし、主体的に観察、実験を行う生徒の割合が増加した。また、結果に対する自分の考えを表現できる生徒の割合も増加した。さらに、実験の結果や考察を基に新たな課題を見いだせる生徒もみられるようになり、生徒の科学的探究心は高まったと考えられる。</p>

10	工業	北吉美大	鹿児島県立加治木工業高等学校	<p>「課題研究」における実践的な技術を育成する学習指導の在り方</p> <p>－ものづくりに生かせるコミュニケーション能力の育成を通して－</p>	<p>本研究では、科目「課題研究」において、日本の産業を担う人材として必要な、実践的な技術の育成のために、グループでものづくりを行う際に重要なコミュニケーション能力の向上について研究した。</p> <p>具体的には、発表や話し合い活動を重視したものづくりを行う中で、ジグソー学習や論理的・批判的な思考力を高めるような学習指導方法の工夫を行った。このことにより、知識や技術の深化・総合化と、グループ活動の充実が図られるのではないかと考え、学習活動の検証を行った。</p> <p>発信力・傾聴力・柔軟性を重視した話し合い活動の中に、論理的・批判的な思考力を高めさせるような学習活動を行わせることで、既習の知識や技術が生かされたものづくりができ、ものづくりに生かせるコミュニケーション能力の育成が図られた。</p>
11	特別支援教育（体育）	中園貴博	鹿児島県立鹿児島養護学校	<p>知的障害のある児童の「基本的な運動」に関する指導の在り方</p> <p>－児童の主体的な活動を目指した授業づくり－</p>	<p>本研究は、特別支援学校小学部体育科における、知的障害のある児童の「基本的な運動」の向上を目指した指導の在り方についての研究である。</p> <p>具体的には、授業づくりを通して、歩く、走る、跳ぶ動作に関する腕や脚の協応動作を高めるための児童の主体的な活動を促す教師の指導の手立ての工夫を行った。また、児童の走る、跳ぶなどの運動や動作の発達段階を調べ、実態把握や指導に生かす方法を調べることができた。</p> <p>体育科の授業づくりの視点を整理することで、それに基づき、児童の運動への興味・関心を高める工夫、体の動きを意識しやすくする工夫、分かりやすい学習環境の設定の工夫を改善した。</p> <p>その結果、児童が主体的に活動することや、身体運動が向上することを明らかにすることができた。</p>